

御絵伝 (その7)

報恩講の時、内陣の余間に飾られる親鸞聖人の御生涯を描いた御絵伝は、御伝抄の内容を描いたものです。縦長の画幅のなかに、下から上へ順番に親鸞聖人のご生涯を見ることが出来ます。

第三軸・第四図 「師資遷謫」



親鸞聖人も法然上人と同じく16日、配所は越後の国府と定められ出発します。

法然上人を見送るのは辛く、時を早めて朝早く岡崎の草庵を出発されているところが描かれています。

右半分は、親鸞聖人が輿に乗せられるところで、左半分は親鸞聖人が乗られた輿が門を出たところが描かれています。

第三軸・第五図 「稲田興法」



親鸞聖人が越後（えちご）の国より常陸（ひたち）の国を越えられ、稲田の草庵にてご教化されているところが描かれています。

右半分は越後の居多が浜をお通りになっているところ、左半分は稲田の草庵でご教化されているところです。

住職レター



善教寺庫裏の阿弥陀如来様

来年の法要日程表、完成しました。お手元に届きましたら、ご覧くださいね。来年のスケジュール予定帳に、法要日程を書き込んで頂ければと思います。

さて、来年の法要日程表キーワードは『悪人正機』。表紙の阿弥陀如来さまの写真に被せて、ドンと掲げました。表紙写真に使ったのは、善教寺庫裏の阿弥陀如来さま。

ごあいさつの原稿には、イオンの永代供養とヤフーの終活（Yahoo!エンディング）について書いております。

永代供養や死に備える終活は、お寺の範疇と云いますか、

宗教法人の事業範囲であり、極論すればお寺の聖域でもあります。そこへ、イオンという流通大手やネット業界最大手であるヤフーが参入してくる。お寺の業界においては、とんでもない一大事か…。

イオンとヤフーの動向は、既存の伝統仏教教団に対しての不信感と、住職の人的魅力が減退していることに、起因しているのかもしれない。

世間の状況と同様、お寺の業界でも、大転換期を迎えつつあるように思います。

この先、どうなるのでしょうか？

